

三月二十九日

十二時頃、研究室。今日中にプロダクトの攻撃的方法の仮説を立てて、実行への足取りも決めたい。桜は八分咲きである。世田谷村を出て、団地の突き当たりの桜は今年も見事な姿になってきた。午後プロダクトミーティング。もう足かけ何年になる挑戦であるうか。失敗の連続であるのだが、これはなんとかしなくては立つ瀬がない。十数名にデザインを割り振ってはみたけれど、自分でやらなきゃ駄目かも知れないな。

三月三〇日

十一時松尾建設来室。九州の権藤君の紹介である。忍田邸図面チェック中に忍田さんより連絡あり、進行状況を心配している様子で申し訳なく思うが、進めているので御安心願いたい。クライアントとの連絡は密にしていけないといけないのだが、それが仲々できていない。設計はクライアントあつてのものだというのが肝に命じなければ。十五時五反田TOC、友岡社長打合わせ。十八時、森川を鉄建建設、梅沢良三事務所に廻らせて研究室に戻る。十九時高山夫妻来室。高山さんは、今、先端のアニメ製作会社の方で、色々と考えている事を聞くのは楽しい。アニメーション・ビジネスの事などもっと知りたいと思うが、仕事を介して良い付き合いになってくれるとよいのだけれど。

ますます時間が流れるのが速くなっている。この速さに巻き込

まれたら、おぼれてしまうような。栄久庵憲司小論を書いたIN AXREPORT一五八が送られてきた。磯崎さんが「和尚へラブリナを釣る」と題した軽妙極まるエッセイを書いていて、一読大笑した。栄久庵さんとしたら、そりゃあ磯崎よりも、黒川紀章、菊竹清訓等のシンプルなビジネススマン型の人の方が気楽に付き合い易いだろうとは思ったが。コンラッド・ワックスマンも磯崎によるとプレファブ棺オケ職人になってしまい、何とも神話性もへったくれもない。

三月三十一日

当り前だが今日で三月も終わりだ。朝、佐藤健との対談のゲラに手を入れ終わる。自分で言うのも恥ずかしいが、面白い対話になっている。屋上に上り生ゴミを埋める。富士山が見える。九時半世田谷村一階で河野鉄工河野君と打ち合わせ。書庫の大方の方針を決める。十二時前研究室。馬場邸の打ち合わせを河野君と。面白いモノを作りたいという人間は大事にしなくては、特に職人の気質を持つ人はことさらである。十三時半、日建設シビル・エンジニアリング橋本氏来室。雑事多数こなす。忍田邸の内部、西岡を軸にやってみることに決めよう。夜、デービッド、アベルと森の学校打ち合わせ。二十二時前まで。